撮りだちトピックス photo News

まちの出来事を写真でお届け

2023 2.1〔水〕▼2.28〔火〕

2月4日(土) ほおっちょけんがオーテピアに登場

参加した子どもたちは、支え合いのシンボル「ほおっちょけん」の塗り絵や工作コーナーなどを楽しみながら、支え合いの大切さを学んでいました。

2月9日(木) 鏡川流域関係人口創出事業に対する寄付への市長表彰

㈱千代田コンサルタントを市長表彰しました。そのほか、第一生命保険㈱、あいおいニッセイ同和損害保険㈱、㈱JECCからも寄付をいただきました。

2月12日(日) 光と映像で幻想的に彩られた高知城

高知商業高校生が「高校生が伝える高知の魅力 with time traveler」をテーマにプロジェクションマッピングを披露しました。

2月19日(日) 「高知龍馬マラソン」3年ぶりの開催

県内外から参加した総勢6,988人が土佐路を駆け抜けました。

2月21日(火) 芸術振興と担い手育成のための寄付への市長表彰

高知の芸術文化を担う若い世代の作家を応援したいとの思いから寄付と絵画を寄贈いただいた柴田恵子さんを市長表彰しました。

2月26日(日) 「こじゃんと！ゆり海道」を開催

高知産のユリや草花を使ったフラワーアレンジメント教室や地元グルメを堪能できるマルシェなどが行われ、多くの来場者で賑わいました。

詳しくはFacebookで♪

市役所の推しゴト！ Work Of Kochi City

地域コミュニティ推進課 編

市役所のお仕事を紹介します

■こんな仕事をしている課です

- 市民活動のサポート
- 地域コミュニティの活性化

▲地域コミュニティ推進課の皆さん

その他の業務内容はこちらから▼

11ページも見てね♪

知っていますか？ こうちこどもファンド

事業者や個人の方からの寄付金などで積み立てた基金を活用して、子どもたちの自由なアイデアで取り組むまちづくり活動を支援しています。

■子どもたちの活動

高知大生とのコラボで、ごみ拾いをスポーツに見立てた清掃活動「スポGOMI（ゴミ）」の実施、地域の山野草を活用した防災食づくりなど、「自分たちの住む地域や学校の周りを今よりももっと楽しくするための活動」や「誰かが喜んでくれる活動」を通じてまちづくりに取り組んでいます。

その他の活動はこちらから▶

【問い合わせ】地域コミュニティ推進課☎823-9080

---

column くらしの中のSDGs Vol.1

SDGsのめざす未来

最近、テレビなどで見聞きすることが多くなった「SDGs」。でも、実際は「よく分からない」「自分には関係なさそう」と思っている方も多いのではないでしょうか。

2015年、地球や人類繁栄のために、全世界が2030年までに達成すべき目標を掲げた「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が国連で採択されました。その前文では「誰一人取り残さない」「すべての人々の人権を実現する」と宣言されており、人権尊重の理念が基礎にあることを示しています。

そして、この2030アジェンダで掲げられている行動目標が17の目標と169のターゲットで構成されたSDGsです。

SDGsには「5つのP」が重要なキーワードとして挙げられています（下表）。これを見ると、SDGsのめざす未来がイメージしやすいのではないでしょうか。SDGsの17の目標は「5つのP」をより具体的にしたものといえます。

今月からスタートした本コラムでは、SDGsのめざす「地球上の全ての人が豊かで幸せに暮らせる未来」を描き、SDGsを根底から支える「人権尊重」の理念を踏まえ、さまざまなテーマを取り上げます。

身の回りの課題とSDGsのつながりを知り、一人一人ができることを一緒に考えてみませんか。

People（人間）	すべての人の尊厳や平等が守られ、健康な環境で生活できる
Prosperity（豊かさ）	豊かな生活を送れるよう、自然と調和した経済や社会、技術を進歩させる
Planet（地球）	将来の世代のために、地球の天然資源と気候を守る
Peace（平和）	恐怖や暴力のない、平和で公正な社会を実現する
Partnership（パートナーシップ）	達成できるようにすべての国と人が参加する

【問い合わせ】人権同和・男女共同参画課☎823-9449

こうちミュージアムネットワーク〈リレーコラム〉

歴史万華鏡 ―unravel the history of Kochi― 〈126回〉

掛川神社の三つ葉葵紋

高知県立図書館 渡邉 哲哉

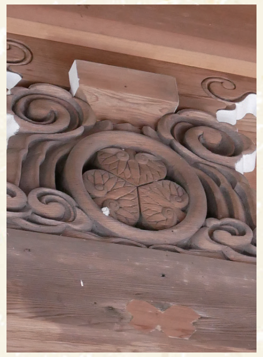
延宝九（一六八一・天和元）年八月二十三日、土佐藩四代藩主山内豊昌は、土佐郡薊野村（現・高知市薊野）の陽貴山國清寺見龍院（ようきざんこくせいじけんりゅういん）を訪れた。境内に新築された徳川将軍家代々の位牌殿に参拝するためである。巳上刻（午前十時頃）に見龍院に到着した豊昌は、位牌殿参拝に際して、各種献上品のほか、藩祖山内一豊が賜った家康自筆書状を奉納した。参拝には、深尾主水（ふかおもんど）ら十余名の重臣が付き従い、一行は参拝の後、隣接する天王宮に参詣。雑煮を食すなどし、未刻（午後二時頃）に帰城したことが、『豊昌公紀』に記されている。

この位牌殿は、前年の二月着工、この年四月に竣工したもので、家康から家綱まで四代の徳川将軍の位牌が納められた。豊昌奉納の家康書状はその後「御神体」として祭られることになる。

見龍院が別当を勤めた天王宮は、二代藩主山内忠義が、寛永十八（一六四一）年、山内氏の旧領である遠州（現・静岡県）掛川から牛頭天王（ごずてんのう）を勧請して造営したもので、産土神（うぶすながみ）として歴代藩主の崇敬を受け、明治元（一八六八）年には改称されて掛川神社となった。

位牌殿はその後どうなったか。高知県立図書館所蔵『土佐郡神社明細帳』の掛川神社の項によれば、文化十二（一八一五）年、十二代藩主山内豊資によって、掛川神社西の新社殿に東照大権現（とうしょうだいごんげん）として遷（せん）祭（さい）され、明治元年には東照神社と改称、明治十三（一八八〇）年に掛川神社に合祭された。

現在、掛川神社拝殿正面の庇下（ひさしした）には、徳川家の家紋である三つ葉葵紋が刻まれている。家康を神として祭る東照宮の勧請は、全国諸藩に見られた動きではあるが、幕末の土佐藩の政治的立場を念頭にその家紋を見る時、ある種の感慨を覚えずにはいられない。



掛川神社拝殿正面の庇下